

ライティングサポートデスク報告

2020 年春学期におけるライティング支援のオンライン化 ーライティングサポートデスクの取り組みー

ライティングサポートデスク担当
相場 いぶき

1. はじめに

大学教育において学生の「書く力」を高めることは重要な課題であり、本学においても「アカデミック・ライティング力の涵養（全学的なライティング強化）」が大学中期計画の 2020 年度重点事項として掲げられている⁽¹⁾。授業以外の場での学生に対するライティング支援の必要性が高まる中、本学ライティングサポートデスク（以下 WSD）はどのような役割を果たし得るのだろうか。本報告では、WSD におけるライティング支援を概観するとともに、2020 年春学期のライティング支援のオンライン化とそれに対する学生の意見をまとめ、今後の展望を述べる。

2. WSD の歩み

本学の WSD は、オスマー図書館が開館 10 周年を迎えた 2010 年に、ライティング・センターのパイロット版という位置づけで設置された⁽²⁾。教養学部長室と図書館の共同運営のかたちを経て、2018 年からは Center for Teaching and Learning（以下 CTL）の管轄下に置かれている。現在 CTL が行っているライティング支援は二つあり、英語文書の添削を対象としたものは「プルーフリーディング（Academic English Support）」、日本語文書と英語文書の添削を行わない支援は「ライティングサポートデスク（WSD）」として区別されている⁽³⁾。

3. WSD におけるライティング支援

3-1 ライティング支援の理念

2004 年に設立された早稲田大学ライティング・センターは、国内の大学におけるライティング支援の先駆けといわれ、本学の WSD も開設時にその多くを参考にしている。特に、ライティング・センターは文章を直すのではなく「自立した書き手を育成する」場である⁽⁴⁾という理念は、現在多くの大学におけるライティング支援に共通する指針となっている。よって本学 WSD においても、「書き手の成長を促す」ことを理念としたライティング支援が行われている。

また、WSD で支援にあたるのは大学院生チューターであり⁽⁵⁾、教員はチューター研修を担当するが直接チュートリアルを行っていない。これは、チューターを指導者ではなくピアとして位置づけることで利用する学生の心理的なハードルを低くし、対話を通じたライティング支援を行うという考えによるものである。

3-2 ライティング支援の内容

大学におけるライティング支援の内容は、それぞれの大学が対象とする学生の実情によって異なる。本学では日本語と英語という二つの言語による書く力を育成していることから、WSD では両言語による執筆文書に対する支援を行っている。相談時の使用言語も日本語と英語のどちらかを選ぶことが可能である。

また、持ち込まれる文書の執筆段階に制限はなく、一文も書かれていない構想段階のものから最終稿まで対応するとともに、引用の仕方などの執筆ルールや資料の収集方法に関する相談にも応じている。対応可能な文書の種類は主にレポート、卒業論文、修士論文、博士論文であるが、ELA (English for Liberal Arts Program) コース課題への支援も行っている。一回のセッション時間は 40 分である。

4. 2020 年春学期におけるライティング支援のオンライン化と利用状況

4-1 ライティング支援のオンライン化

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い春学期に全学の授業がオンライン化し、これまで対面で行われていた WSD のライティング支援もすべてオンライン上で行われることになった。3 月の段階では Zoom をプラットフォームとして使用する準備が整っておらず、ライセンス・アカウントの登録が不要ですぐにセッションが行える状況にあった Google Meet を使用することとした。しかし、授業では Zoom が多く用いられ、学生も操作に慣れていることから、学期途中から個別に Zoom での対応も行った。2020 年秋学期はすべての学生のライセンス登録が完了しており、学期始めから Zoom を用いたオンライン・セッションを行っている。

対面からオンラインへと移行した際、ライティング支援の手順に大きな変化はなかった。セッションの予約やセッション後の利用アンケートはこれまで同様にオンライン上で行われた。しかし、対面時に設定されていた予約不要の Walk-in セッションは、春学期は行われなかった。秋学期からの Walk-in セッションは、昼休みに限定し Zoom を用いて行われている。

また、オンライン化によってチュートリアルで使用するツールが変化したことに伴い、資料の共有方法などにも変化が見られた。具体的には、これまでチューターと利用者が紙で共有していた文書を Google Drive を用いて双方のパソコン画面で共有する、書籍の検索に関する情報のリンクを Zoom のチャット機能を用いて伝えるなどである。

4-2 利用状況

ライティング支援の急激なオンライン化に伴い、当初は利用件数の伸び悩みが懸念された。しかし実際の春学期における利用状況は前年を上回る結果となった。学期ごとに比較すると、2019 年春学期は延べ利用件数が 144 件であったのに対し、2020 年春学期は 164 件で、前年に比べ約 14% の増加となった。このような利用件数の増加傾向は秋学期も続いており、2020 年 9 月の延べ利用件数は 48 件となり、前年 9 月の 36 件を約 33% 上回っている。以下はそれらを比較したグラフである。

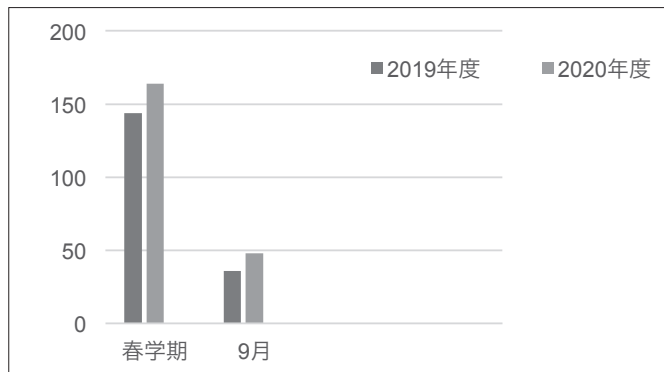


図1 WSD 予約セッション利用状況

5. オンライン化に対するアンケート調査

5-1 調査の方法

以上のような変化に伴い、チューターと利用者双方の意見をもとにライティング支援のオンライン化における利点と問題点を探る必要性を感じ、調査を行った。調査の方法は Google Forms を用いたアンケートで、回答期間は春学期終了後の 2020 年 7 月 8 日（水）から同年 7 月 17 日（金）であった。対象者は春学期の大学院生チューター 28 名と利用者 48 名とした。しかし 6 月下旬の春学期終了から調査までの時間が空いたことや、学期の終了とともに帰国した学生が多かったことから、回答者数は大学院生チューター 8 名、利用者 12 名であった。質問項目は日英両語で 7 つ作成し、対象者はどちらか一方に回答した。また、質問に「はい（Yes）」と回答した場合は、その理由を記述するものとした。

5-2 調査の結果

以下にアンケートで尋ねた 7 つの質問項目と、大学院生チューターと利用者の回答結果をまとめる⁽⁶⁾。

表1 2020 年春学期 WSD オンライン・チュートリアルに関するアンケート結果

1-a. (チューターのみに対する質問) オンラインでのチュートリアルの準備の仕方や費やした時間は、対面時と異なりましたか。Did the preparation and the time you spent before online tutorials differ from those for face-to-face tutorials?
<p>チューターの回答：はい (Yes) 37.5%、いいえ (No) 62.5%</p> <p>「はい」と答えた理由：事前に文書を共有したことで必要以上に読み込むことが増えた、インターネットの接続や予約を入れるのに神経を使った、等</p>

1-b. (利用者のみに対する質問) 今学期以前に、WSD で対面によるライティング・サポートを利用したことがありましたか。Have you used face-to-face writing support at WSD before this semester?
利用者の回答：はい (Yes) 8.3%、いいえ (No) 91.7%
2. オンラインでのチュートリアルの流れや内容は、対面時と異なりましたか。Did the flow and content of online tutorials differ from those of face-to-face tutorials?
<p>チューターの回答：はい (Yes) 62.5%、いいえ (No) 37.5%</p> <p>「はい」と答えた理由：沈黙の時間を作りすぎると不安になり対面時より質問を多く投げかけた、テクニカルな面に多く気を取られた、等</p> <p>利用者の回答 (1-b で「はい」と答えた 1 名のみ)：はい (Yes) 0%、いいえ (No) 100%</p>
3. オンラインでのチュートリアルで、対面時にはない困難を感じた点がありますか。Did you find any difficulties in online tutorials that you did not have in face-to-face tutorials?
<p>チューターの回答：はい (Yes) 75%、いいえ (No) 25%</p> <p>「はい」と答えた理由：対面時以上に言葉で説明してもらう必要があった、スタッフや他のチューターに相談する機会がない、画面がフリーズし利用者の表情がつかめなかった、等</p> <p>利用者の回答：はい (Yes) 16.7%、いいえ (No) 83.3%</p>
4. オンラインでのチュートリアルで、対面時にはない良さを感じた点がありますか。Did you find any advantages for online tutorials compared with face-to-face tutorials?
<p>チューターの回答：はい (Yes) 87.5%、いいえ (No) 12.5%</p> <p>「はい」と答えた理由：気軽にできる、移動時間がなく大学に行かない日も対応できる、対面時は遅刻する利用者が多かったがオンラインではほとんどなかった、PC で画面共有するのは便利、等</p> <p>利用者の回答：はい (Yes) 58.3%、いいえ (No) 41.7%</p> <p>「はい」と答えた理由：コロナ禍でもセッションを受けられた、等</p>
5. 今後通常の対面授業に戻っても、オンラインでのチュートリアルを WSD の形態の一つとして継続すべきだと思いますか。Do you think that online tutorials should be continued as one of the styles of writing support at WSD even when the university goes back to regular face-to-face class style in the future?
<p>チューターの回答：はい (Yes) 100%、いいえ (No) 0%</p> <p>「はい」と答えた理由：慣れれば対面と大きく変わらない、便利だし利用者も増えそう、等</p> <p>利用者の回答：はい (Yes) 91.7%、いいえ (No) 8.3%</p> <p>「はい」と答えた理由：オンラインだとハードルが低い、等</p>

6. オンラインでのチュートリアルに有効だったものがあれば教えてください。(パソコン機能、ウェブサイト、アプリ、書籍や記事など、何でも構いません。) Please tell us any useful tools you used for online tutorials. (Computer functions, websites, apps, books, articles, etc.)
チューターの回答：チャット機能、メール、Google Docs、Google Scholar、ICU library、e-book 利用者の回答：Google Docs、パソコンの共有機能
7. 今後オンラインでのチュートリアルにおいて、どのようなサポートがあればよいと思いますか。改善してほしい点なども含め、自由に述べてください。What support would you need for future online tutorials? Please feel free to mention anything you would like us to improve.
チューターの回答：学生からのフィードバック、チューターとオフィスとの連携強化、Google Meet ではなく Zoom を使用する 利用者の回答：なし

質問 1-a はオンライン化に伴いチューターの準備における負担が増えたかどうかを確認する問いであったが、過半数が「いいえ」と回答した。一方、質問 2 ではチューターの過半数がオンラインでのチュートリアルは対面時とは異なると答えており、準備の負担は大幅に増加していないものの、チュートリアルの流れや内容については変化を感じていることがわかった。質問 3 では、チューターの 7 割以上が対面時にはない困難を感じたと答えたのに対し、利用者で困難を感じたと回答したのは 2 割以下であった。質問 4 に対する回答には、利用者よりチューターの方がオンラインでのチュートリアルに良さを感じる傾向が見られた。質問 5 への回答からは、チューターの全員、利用者の約 9 割がオンラインによるチュートリアルの継続を望んでいることが明らかになった。質問 6 に対する回答からは、Google Docs がチューターと利用者に通ずる有効なツールであることがわかった。質問 7 への回答で示された「チューターとオフィスの連携強化」は、オンライン化によって困難となった課題である。

以上の結果から、チューター、利用者ともに WSD におけるライティング支援のオンライン化に好意的な反応を示しており、授業が対面に戻っても継続を希望していることが明らかになった。また、オンライン化に伴う問題があったとしても、その多くはパソコン操作等のテクニカルなもので、ライティング支援の内容そのものにかかわる大きな問題は見られなかった。最後に、「オンラインだとハードルが低い」という回答は利用者の心理を端的に表しており、ライティング支援のオンライン化が WSD 利用の動機づけに影響を与える可能性が示唆された。

6. 今後の展望

2020 年春学期におけるライティング支援のオンライン化とそれに対する学生の意見から、今後 WSD の役割は多岐にわたることが予想される。例えば、チューターと利用者の双方が対面授業に戻った際もオンラインによるライティング支援の継続を希望していることから、今後はキャンパス外からの WSD 利用に対する継続的な機会提供という

役割が課せられるだろう。アンケートの回答にも見られたが、これはオンライン化に慣れてしまえばそれほど大きな問題ではなく、むしろチューターと利用者双方の利便性を高める契機ととらえてゆくべきであろう。

また、今後 WSD の役割はライティング支援そのものにとどまらない可能性も示唆された。2020 年 7 月 10 日にアンケート調査ではとらえきれなかった利用者の声を聞くために行ったインタビューでは、WSD の定期的な利用がリモート時でも大学の学習環境を再現することに役立ったとの感想を得ている⁽⁷⁾。オンライン状況下で学生は自己管理スキルや大学への所属意識を高める手段を模索している。「書き手の成長を促す」という理念のもと、対話によるライティング支援を重視してきた WSD は、授業のオンライン化により他者とのつながりが感じにくく孤立しがちな学生の不安を和らげ、心理的な支えとしての存在意義もまた示してゆけるのではないだろうか。

注

- (1) 「国際基督教大学 2020 年度までの中期計画における、2020 年度の重点事項」(https://www.icu.ac.jp/about/images/Midtermplan_2020priority.pdf) に記載されている。
- (2) WSD 設置の経緯は、畠山珠美 (2011) 「ライティング・センター：構想から実現へ」『情報の科学と技術 61 巻 12 号』情報科学技術協会で詳述されている。
- (3) 本稿での WSD におけるライティング支援の内容に関する記述は、WSD ウェブサイト (https://office.icu.ac.jp/ctl/writing_support/wsd.html) によるものである。
- (4) この理念は、佐渡島沙織・太田裕子 (2013) 『文章チュータリングの理念と実践ー早稲田大学ライティング・センターでの取り組み』ひつじ書房で述べられている。
- (5) 2020 年冬学期からは、条件を満たした学部生チューターも任用する予定である。
- (6) 「はい」と答えた理由に関しては、内容が重複したものや個人が特定されるようなものを省いて記載した。また、英語での回答は日本語に翻訳して記述している。
- (7) 春学期に特に利用頻度が高かった 2 名に対し、Zoom 上でそれぞれ 30 分ずつインタビューを行った。対象者は 1 年生 1 名、2 年生 1 名であった。